



# DX戦略 2029

# DX戦略サマリー

- 経営理念
- トップメッセージ
- デジタル技術の影響
- 経営ビジョン
- DX戦略
  - 組織体制と人材育成・確保
  - ITシステム環境整備
- DX推進指標（KPI）

わたしたちの会社が幾代にも渡って継続し続けるために

## 社 是 革新と挑戦

人にして遠き慮り無ければ、必ず近き愛い有り

経営理念

人間力を引き出し、磨き高めて発揮する

コミュニケーション 全員参加

収支日計

# トップメッセージ

弊社は、過去8年間にわたり、本社を置く静岡県から千葉、神奈川、愛知、兵庫へと、トラック営業所と倉庫、物流センターを兼ね備えたネットワークを拡大して参りました。

さらに、2030年に向けては北関東エリアに新拠点を計画し、独自の物流ネットワーク「MELリレー輸配送便」の構築を進めています。

この基盤を活かし、専門性を追求するメディカル・ケミカル分野への参入を強化することで、「大切な命と新時代の産業を支えるロジスティクス」を実現して参ります。

物流業界が「新物流2法」への対応を急ぐ中、弊社は「革新と挑戦」をスローガンに、更なる変革を推進します。全社を挙げてデジタル化に取り組み「属人化」から「集合知」へとビジネスモデルを変革するDX戦略を推進し、国内市場での競争力強化を図って参ります。

具体的には、AIや省人化技術を導入し、物流プロセスのデジタル化とリアルタイムのデータ分析を活用します。これにより、効率的なルートプランニングや最適な共同配送を実現し、お客様に安全で迅速な「持続可能な物流」を提供して参ります。

また、デジタルプラットフォームや顧客ポータルを構築することで、お客様との連携を強化し物流課題の解決に取り組んで参ります。

DX戦略の推進は、社員一人ひとりの力を引き出し、組織全体の革新的なアプローチを促進します。弊社の経営理念『人間力を引き出し、磨き高めて発揮する』を体現し、社員の自己実現と幸福。そして、お客様と関係各社の皆様の幸福を追求して参ります。

私たちは、安全・安心・法令遵守を経営基盤とし、勝ち残る物流企業として日本の経済力を高める一助となるべく邁進して参ります。

2026.2.27

代表取締役 橋口智規

# デジタル技術の影響

- 近年のデジタル化の流れは物流業界においても急速に進行しつつあり、今後弊社を取り巻く競争環境に対し機会と脅威の両面から影響を及ぼすと考えられます。
- デジタル技術の進展は弊社のような中堅運送会社にとって大きな機会となり得ますが、その機会を最大限活用するためには適切な戦略と投資が必要となります。
- デジタル化の流れに適応し、競争力を維持・向上させるためには、全社挙げてのデジタル化への取り組みが不可欠です。

## 機会

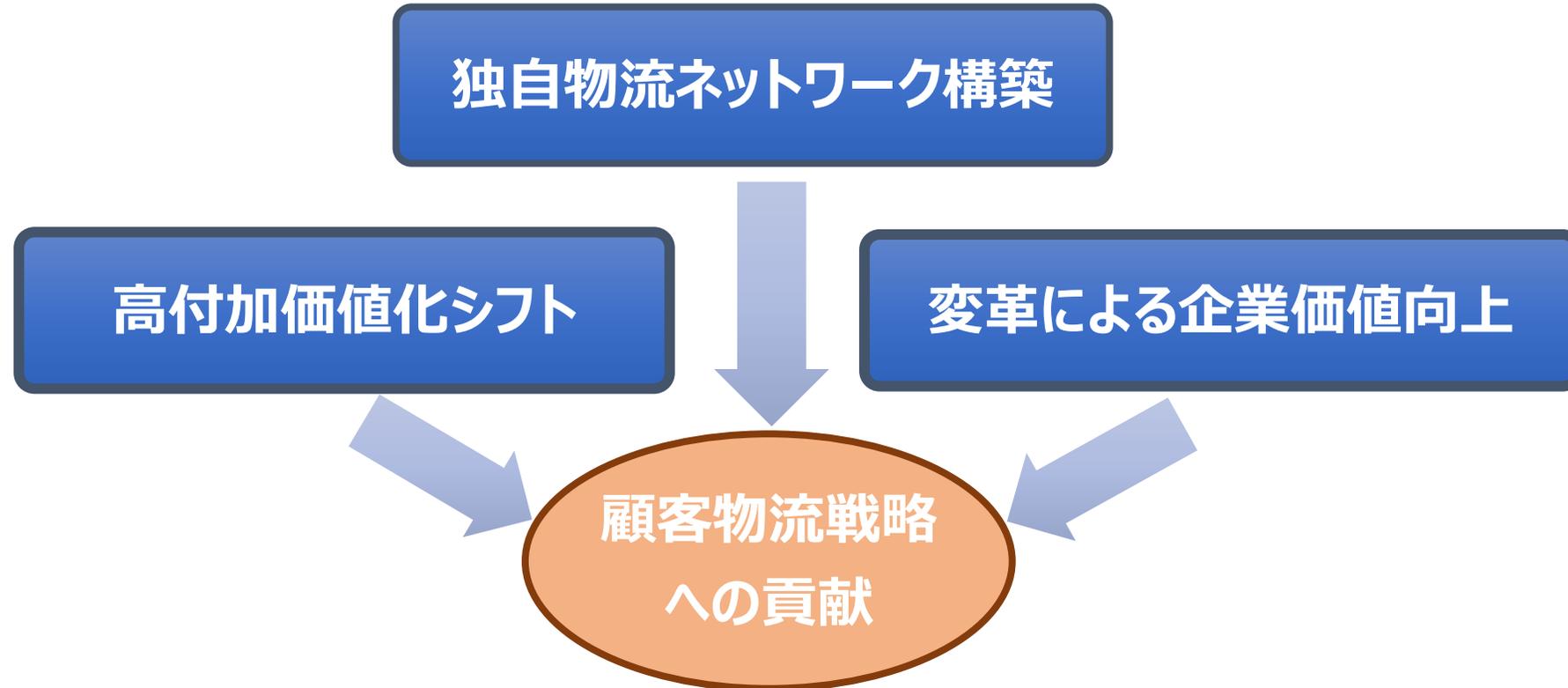
- 新たなビジネスモデルの創出
- 新規市場への参入
- 提供サービスの多様化と差別化
- 業務効率化によるコスト削減
- 顧客満足度の向上

## 脅威

- 競争力の低下
- 市場シェアの縮小
- 価格競争の激化
- 顧客の流出
- 新たな規制や業界標準の変化

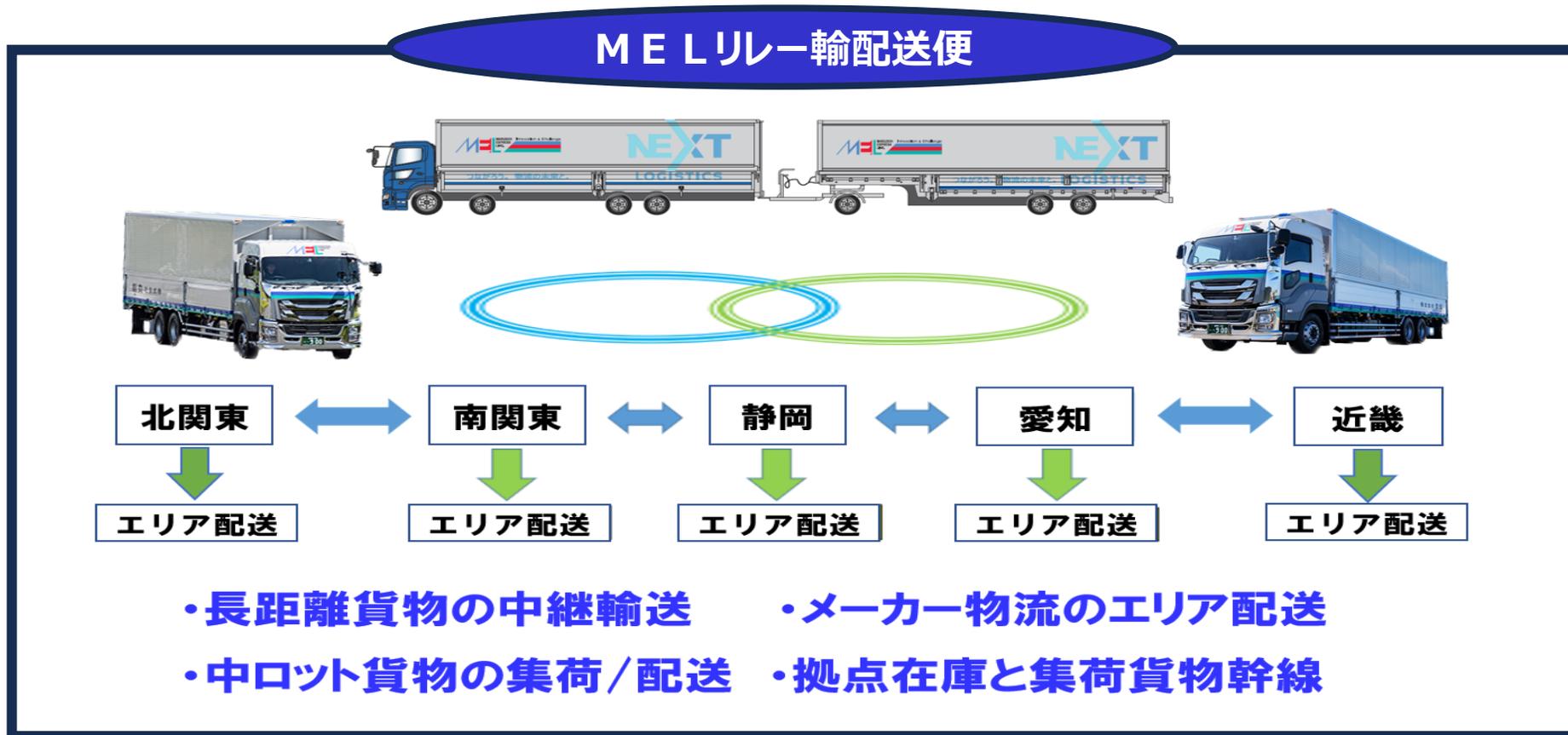
# 経営ビジョンの全体像

- 独自物流ネットワークの構築と徹底した高付加価値分野へのシフトにより高品質な物流サービスを提供します。
- 組織と業務の両面において企業文化の変革に取り組み企業価値を高めます。
- これにより、お客様の課題解決を図り物流戦略の推進に貢献して参ります。



# 経営ビジョン I 「独自物流ネットワーク構築」

- 幹線輸送（長距離）と各エリアの小口配送（短距離）を組み合わせた独自の物流ネットワーク（MELリレー輸配送便）を構築し、多品種少ロット配送への対応力を強化することでお客様の物流を支えて参ります。



# 経営ビジョンⅡ「高付加価値化シフト」

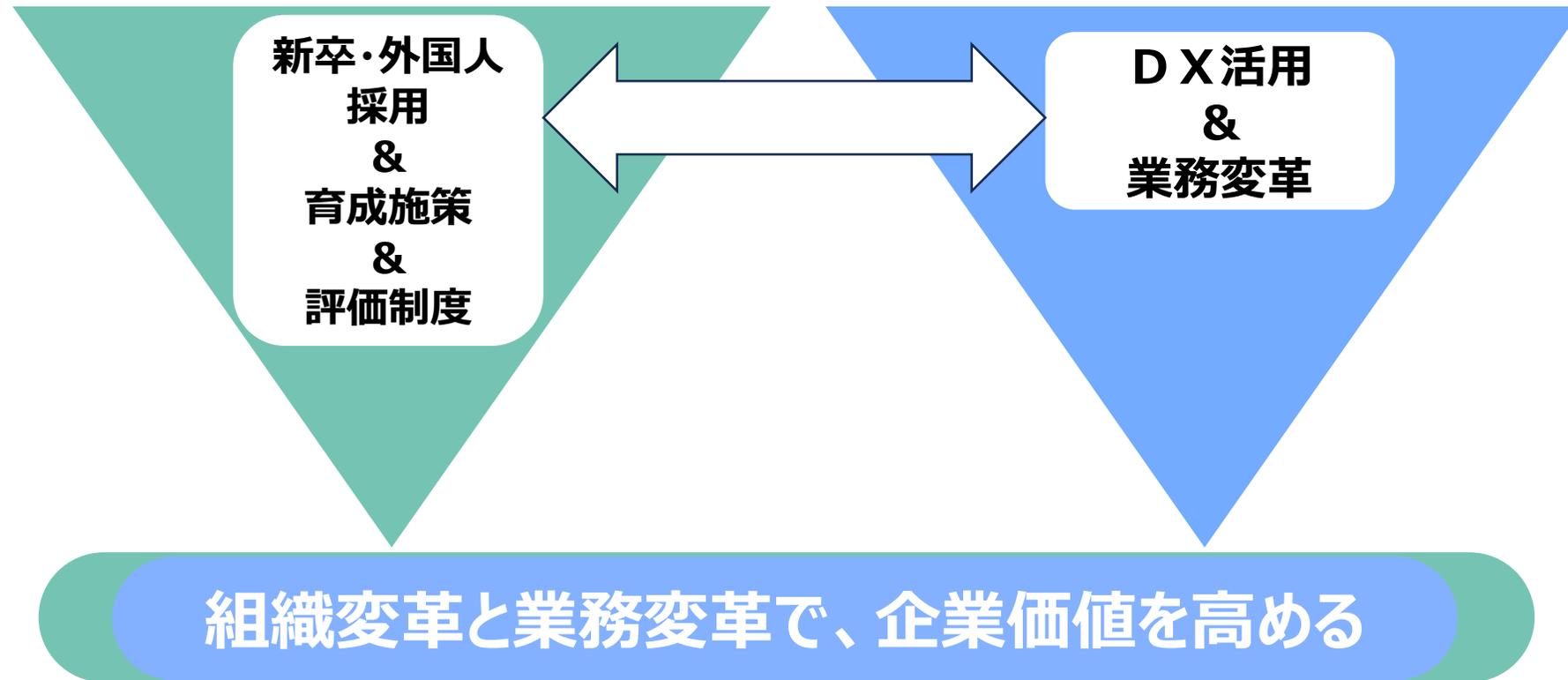
- スポット配送中心のビジネスモデルを見直し、ビジネスの高付加価値化が見込めるメディカル・ケミカル、ファクトリー分野に注力します。
- 独自の物流ネットワークをベースに高度な物流サービスを提供し、高い専門性が要求される同分野のお客様の物流戦略に貢献します。



**専門性を追求し、付加価値の高い業務だけに特化**

# 経営ビジョンⅢ「変革による企業価値向上」

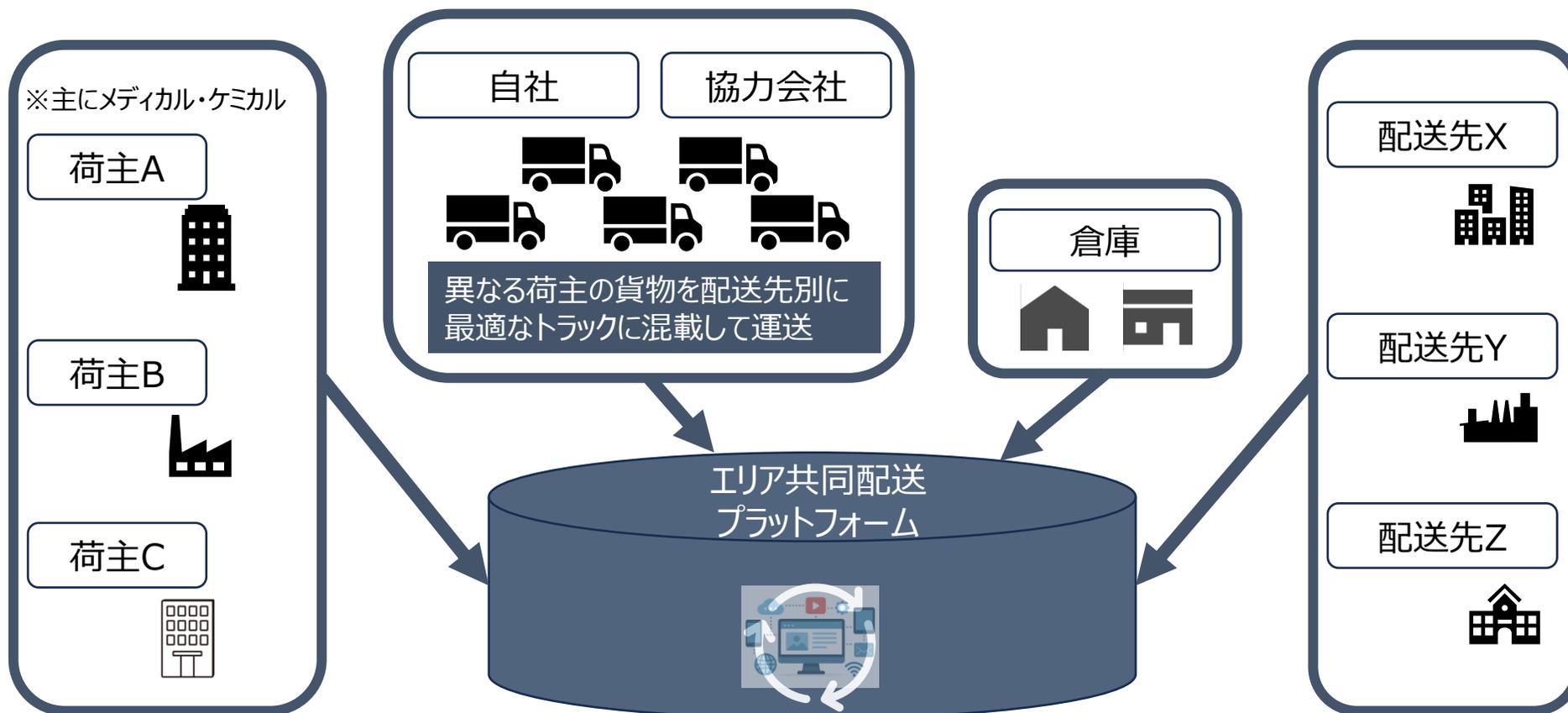
- 採用 & 育成&評価の制度を整備し、社員一人ひとりの力を引き出します。これにより、DX推進活動を強力に推進し、組織全体で革新的な業務改革に取り組みます。
- 弊社の経営理念『人間力を引き出し、磨き高めて発揮する』に則して、「変革」をキーワードに社員の自己実現と幸福の実現を両立させます。また、お客様や関係者の皆様の幸福の追求して参ります。



# DX戦略

## 戦略 1「MELリレー輸配送便を実現する共配プラットフォームの構築」

- 効率的なエリア共同配送を実現するための情報と物流の流通基盤を構築します
- 荷主や協力会社ともデータ連携することで、サプライチェーン全体における配送データを一元管理します
- 少量貨物や急な需要変動にも柔軟に対応することで荷主のニーズに応え、リードタイムを短縮します



# DX戦略

## 戦略2「大手倉庫事業者との連携による次世代物流サービスの提供」

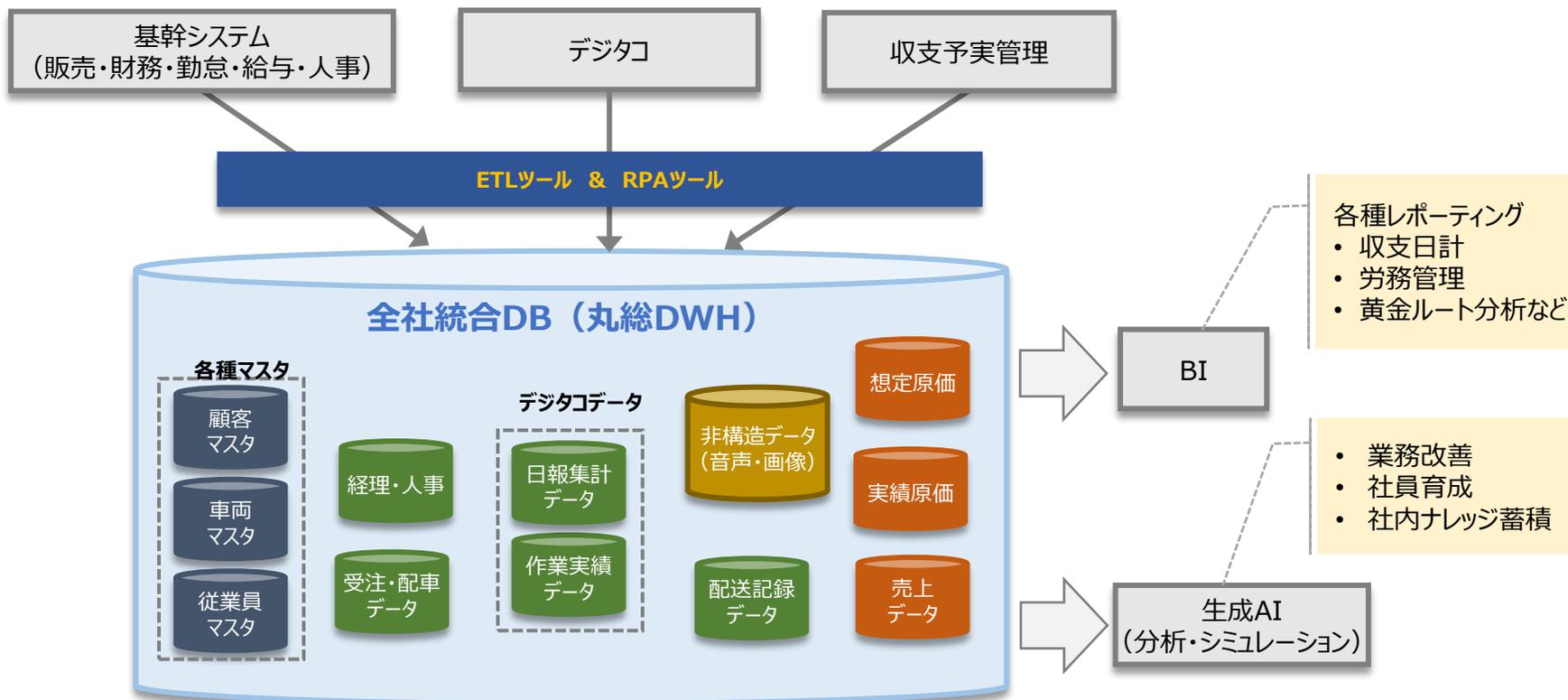
- 大手倉庫事業者との連携により、メディカルの顧客向けに最適化された受注・集荷・配送・倉庫管理サービスを提供します
- 先進的なドライバー用モバイルアプリ導入により業務プロセスで生じるあらゆるデータをコントロールセンターでリアルタイムに一元管理し、物流オペレーションの自動化・効率化・均質化を図ります



# DX戦略

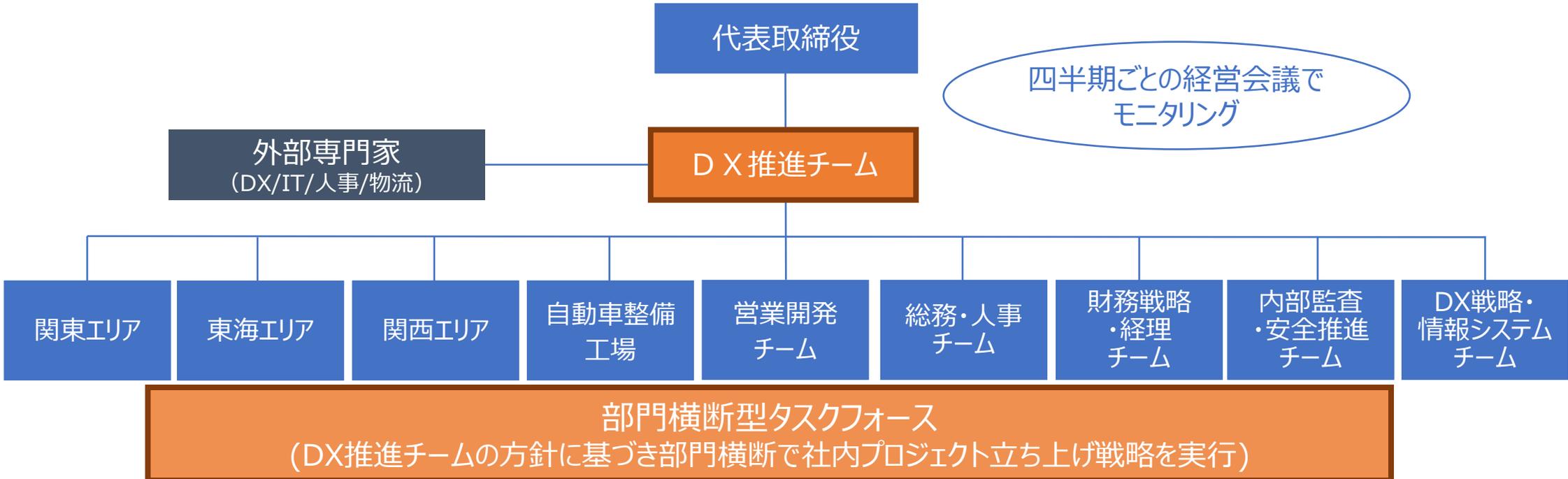
## 戦略3「デジタルリテラシー向上による全社情報化武装」

- 全社データ分析基盤（丸総DWH）の構築により経営状況を可視化し、意思決定の迅速化を図ります
- KGIやKPIを活用しながら、常にデータによる判断で改善活動を持続する組織カルチャーを醸成し、社員のデジタルリテラシーを向上させます
- 生成AI技術を活用して高度なデータ分析やシミュレーションを行い業務オペレーションの最適化を図ります



# DX戦略 組織体制と人材育成・確保 (DX推進組織体制)

- 各事業部門の責任者からなるDX推進チームを設置します。配下の事業部門に対するDX関連施策の指揮命令権を持ち、代表取締役直結でDX推進施策を実行します。四半期毎の経営会議でDX施策の進捗状況をモニタリングし必要に応じ計画を見直していきます。
- DX推進チームが立案した施策については、関係部署を巻き込んだ部門横断型のDX推進タスクフォースを立ち上げ、社員の当事者意識を醸成していきます。
- DX、IT、人事、物流などの外部専門家との連携により取り組みを加速します。



# DX戦略 組織体制と人材育成・確保 (デジタル人材の育成と確保)

- DX人材のスキル棚卸と可視化に取り組み、スキルレベルに沿った育成プログラムを提供することで、全社的なITリテラシーの向上を図ります。
- IT活用による採用活動の効率化と育成期間の短期化で人材を確保します。
- デジタル人材に対する適切な育成と評価を行い人材の定着とスキルアップを図ります。

## 人材育成

- 自己評価 + 簡易診断によりでデジタル人材の現状スキルを棚卸しのうえ、3つの階層に層別することで可視化する (階層案) ①DX推進リーダー層 ②業務改善・データ活用実務推進層 ③一般社員層
- 階層別に求められるデジタルスキルを定義する
- 外部機関と連携し経産省デジタルスキル標準に準拠した階層別研修を実施する  
①DX/AIリーダー養成講座 ②デジタル人材養成講座 ③ITパスポート試験対策講座
- 社内のDX実践事例発表会を定期開催。相互啓発により業務改革の機運を醸成する

## 人材確保

- 全社員を対象にDX意識調査を行い活動の浸透度合いを可視化し個別面談を行う
- 外国人も含む新卒採用活動の強化およびCRMツールの活用による有望人材へのアプローチ強化により採用計画人員数を確保する
- ITを活用した業務の標準化と効率化に注力し、人材育成時間を短縮し早期の戦力化を図る
- 人事コンサルタントとの連携により人事評価制度の改定に取り組み、デジタル人材に対する適正な評価と処遇を施す運用を定着させていく

# DX戦略 ITシステム環境整備

- 2026年度から2028年度にかけて、毎年売上の0.6%相当のバリューアップ投資予算枠を設け、下記テーマに取り組むことでITシステム・デジタル技術活用環境を整備します。
- ラン・ザ・ビジネス予算（既存システム関連）と合わせた年間IT投資額は売上高の1%相当を計画しています。

## ① 共同配送データ連携システムの整備

戦略1のエリア共同配送プラットフォームの基盤となる共同配送データ連携システムを整備します。

- ・ 配送基幹システムの再構築を起点とした各種システムの連携・デジタル化促進による社内システムの全体最適化
- ・ 車載デバイス（GPS/デジタコ/スマホアプリ）からの配送データ収集機能の実装
- ・ 荷主・協力会社間データ連携の標準化（API基盤整備）
- ・ 荷主・協力会社向け共通ポータルサイトの構築

## ③ 全社統合DB(丸総DWH)の整備

戦略3の全社情報化促進に向けて全社統合DBを整備し、データドリブン経営を実践します。

- ・ データ統合基盤（DWH+ETL+RPA）の整備実装
- ・ BIツールの導入と自社業務向けカスタマイズ
- ・ 他システムとのIF機能の実装
- ・ 非構造データのデータモデル設計とAI活用基盤の整備
- ・ 社員向けナレッジベース環境の整備

## ② 医薬品物流コントロールセンターの構築

戦略2のメディカル向け物流サービスを提供するため、大手倉庫会社と連携してまずは医薬品対象とした物流コントロールセンターの構築に取り組みます。

- ・ モバイルアプリの開発と端末管理・アプリ配布基盤の整備
- ・ 倉庫/中継拠点のWi-Fi整備、モバイル回線の冗長化
- ・ 大手倉庫会社とのリアルタイム連携に耐える自社サーバー/クラウド環境の整備
- ・ 大手倉庫会社コントロールセンターのデータと自社システムとの連携

## ④ 全社ITセキュリティ対策の強化

戦略1・2・3を安全に遂行するため、ゼロトラストポリシーに則した効果的な全社ITセキュリティ対策を施します。

- ・ UTM（Unified Threat Management）を導入しウイルスや不正アクセスを遮断
- ・ EDR（Endpoint Detection and Response）の導入による端末の挙動監視強化
- ・ ファイル共有/送信の暗号化とログ管理の徹底
- ・ 全社的なセキュリティマネジメントシステムの高度化

# DX推進指標（KPI 定性目標）

- 戦略実現に向けた推進指標として以下のKPIを定め、DX推進チームにて随時モニタリングをしていながらPDCAサイクルを回していきます。

推進指標（KPI）	関連する戦略	目指す達成状況
共同配送プラットフォームの構築	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 配送データ連携プラットフォームの構築完了している</li> <li>・ 運用マニュアル・業務フローが完成している</li> <li>・ 主要3拠点（神奈川・静岡・兵庫）で標準運用開始している</li> </ul>
医薬品物流コントロールセンターの標準オペレーション確立	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コントロールセンターの標準手順書が完成し担当スタッフの育成が完了している</li> <li>・ 医薬品配送の主要プロセス（受付・集荷・配送・納品）が安定的に運用されている</li> <li>・ 大手倉庫会社との定例会議が毎月開催されている</li> </ul>
全社データドリブン経営の定着	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 経営会議・営業会議にてBIダッシュボードを用いた報告が「毎月」実施されている</li> <li>・ 導入前と比較して日々収支の精度が向上している</li> <li>・ データに基づく改善アクションが立案され実行されている</li> </ul>
デジタル人材育成体系の整備と定着	1・2・3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ DXスキルマップ（3階層）が完成し全社員のスキル棚卸しが100%完了している</li> <li>・ 年初に年間研修計画を策定し実施状況を把握する運用が定着している</li> <li>・ デジタルスキル保有人材に対する適切な人事制度が構築されている</li> </ul>

# DX推進指標（KPI 定量目標）

- 戦略実現に向けた推進指標として以下のKPIを定め、DX推進チームにて随時モニタリングをしていながらPDCAサイクルを回していきます。

推進指標（KPI）	関連する戦略	目標値		
		2026年度末	2027年度末	2028年度末
メディカル、ケミカル分野の売上拡大	1・2	対年度+10%	対年度+20%	対年度+30%
トラック1台当たりの売上向上率	1・2	対前年+3%	対前年+5%	対前年+10%
医薬品配送業務のリアルタイム追跡率向上	2	90%	92%	95%
DX社員意識調査の全体平均値	3	対前年+0.2点	対前年+0.3点	対前年+0.5点
ITパスポート資格所有者数	3	新規2名合格	新規5名合格	新規5名合格
社員向けデジタル人材養成講座受講者数	3	15人/年	15人/年	15人/年
全社統合DB（丸総DWH）を活用した業務改善件数	3	各エリア5件/月	各エリア5件/月	各エリア5件/月
DX推進社内タスクフォース数	1・2・3	8件/年	8件/年	8件/年
新卒採用数（外国人含む）	1・2・3	2名採用	3名採用	3名採用

まるっとまかそう ~With Your NEEDS~

